

授業科目名	景観デザイン演習 1 (基礎) Landscape Design Seminar 1 (Introduction)	担当教員名	小杉 栄次郎、菅原 香織、 石山 友美、井上 宗則、 岸 健太
時間割	水曜日 4、5 時限	オフィスワーカー	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次前期	単位数	4 単位
<p>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</p> <p>【図学製図】、「空間表現演習 1, 2」、「空間計画演習」を前提としている。</p> <p>【設計 CAD 演習 1, 2】と内容が関連している。</p>			
<p>授業に関連するキーワード</p> <p>景観、フィールドワーク、建築、ランドスケープ、デザイン</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>景観デザインの基礎について演習を通して学び、習得します。フィールドワークを実践と、その言語化や抽象化を通してコンセプト、そして形体へと転化するプロセスを経験し習得します。また、造形と計画を行き来しながら提案をブラッシュアップしていくことで作品化することを目標とします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各課題について、基本的に設計主旨文、平面図、立面図、断面図、内観・外観パース（及びスケッチ）を作成しプレゼンテーションします。（具体的な提出成果物は課題発表時による。）</p> <p>課題 1、小規模複合用途施設設計課題 （例）兼用住宅など</p> <p>課題 2、造形とフィールドワークのハイブリッド演習課題 造形力とフィールドワークの関連付けや言語化、抽象化</p> <p>課題 3、公共施設設計課題 （例）アーティストのためのアートセンター</p> <p>※必要に応じて特別講師の講義やエスキースを行うことがあります。 ※設計実務で必要とされるリアリティーのあるプログラムを構築する能力を養うため、造形イメージだけでなく施設・空間の用途や使い方を含めた提案を要求する課題を設定する。</p>			
<p>授業計画。</p> <p>設計課題 1 第 1－8 回 フィールドワークと設計デザインスタディーと教員によるエスキース（中間発表・講評含む） 第 9－10 回 プレゼンテーション、講評</p> <p>設計課題 2 第 11－16 回 フィールドワークと設計デザインスタディーと教員によるエスキース（中間発表・講評含む） 第 17－18 回 プレゼンテーション、講評</p> <p>設計課題 3 第 19－28 回 フィールドワークと設計デザインスタディーと教員によるエスキース（中間発表・講評含む） 第 29－30 回 プレゼンテーション、講評</p>			
<p>授業時間外の学習内容等</p> <p>授業時間では教員とのエスキース指導に多くを当てるため、授業時間外の作業が見込まれている。</p>			
<p>評価方法</p> <p>各課題の提出物と講評時のプレゼンテーション 90%、授業への取組態度 10%による総合評価</p>			
<p>履修上の注意</p> <p>演習の進行に応じて課題の建築用途等に変更することがある。作品の材料費や現地調査などの費用は個人負担とする</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業内で必要に応じて随時紹介する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業内で必要に応じて随時紹介する</p>			

授業科目名	都市デザイン論 Urban Design Theory	担当教員名	小野寺 康
時間割	集中	ワイスアワー	—
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3年次前期	単位数	2単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
授業の到達目標及びテーマ 地域文化に根ざした美しく魅力的な風土景観の創出を目指し、「快適で満足感を生むまち」、「地域内外の人を惹き付け、心地よい落ち着きとにぎわいに溢れた美しいまち」を創り出すための実践的なデザイン理念と手法を学ぶ。 デザイン・コンセプトの立案、及びそれを美しく機能的な形態にまとめ上げるまでの基礎素養及び実践的な知識・手法について学習する。			
授業の概要 都市デザインの概念と手法について、都市形成史と最新のデザイン事例を通して講ずる。地方都市の抱える問題解決や都市空間の質（文化性）向上に果たす都市デザインの役割と可能性について、都市計画、建築デザインや景観（ランドスケープ）デザインとの関わりを含めた講義を行う。 講義対象は、まちづくり、公共空間（パブリックスペース）のデザインが中心となる。 表層的な造形論にとどまらず、豊かな空間とは何か、人間が生きる手応えのある場所のデザインとはどうあるべきか、人間の生きられる場所や空間づくりには本来どのような方法論がふさわしいのかといった観点を重視する。			
授業計画 第1回 ガイダンス／都市デザインとは 第2回 都市デザインの流れ 第3回 都市デザインの歴史①西欧の伝統的なにぎわい空間 第4回 都市デザインの歴史②日本の伝統的なにぎわい空間 第5回 空間を読む・構想する① 空間構成 第6回 空間を読む・構想する② 領域性 第7回 空間を読む・構想する③ スケールとサイズ 第8回 空間を読む・構想する④ 動線とアクセス 第9回 空間を読む・構想する⑤ 空間分節（アーティキュレーション） 第10回 空間をつくる① 人を主役にする 第11回 空間をつくる② 形に多義性を与える 第12回 空間をつくる③ 境界部に心を砕く 第13回 空間をつくる④ 形と素材を同時に考える 第14回 空間をつくる⑤ にぎわいを造形する 第15回 デザインの実践事例			
授業時間外の学習内容等			
評価方法 レポート（1回）による評価（100点）			
履修上の注意 特になし			
テキスト 広場のデザイン―『にぎわい』の都市設計 5 原則―（小野寺康、彰国社） …テキストは必須ではないが講義の内容は少なからず本書に対応している			
参考書・参考資料等 「広場の造形」（カミロ・ジッテ、鹿島出版会） 「日本デザイン論」（伊藤ていじ、鹿島出版会） 「都市のイメージ」（ケヴィン・リンチ、岩波書店）など			

授業科目名	景観デザイン論 Landscape Design Theory	担当教員名	小杉 栄次郎、
時間割	水曜日 3 時限	オフィスアワー	水曜日 2 限
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	講義（オムニバス）
配当年次・学期	3 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「現代芸術論 1, 2」を前提としている。			
授業に関連するキーワード 景観、建築、ランドスケープ、デザイン			
授業の到達目標及びテーマ われわれの生活する住環境は、ヒト・モノ・シゼン（社会環境・人工環境・自然環境）の三者が関係して調和する、歴史的に形成した総体としての「空間」である。景観デザインを人々の生活や活動を支える「空間」の側から考えるとき、ヒト・モノ・シゼン個々の課題や技術とは違った、その要因や意味合いが意識されてくる。それは単にモノの持つ物理的な強度のほかに、ヒトの経験や心に受ける強度として、そのあるべき姿・形が問われる側面である。そうした「空間」のありようを念頭に据えて「景観デザインの持つ創作的な視界」について思考を深めることを目的とする。			
授業の概要 各回のテーマは仮に設定して、景観デザインに関わる時事問題や専攻教員による各専門分野に関するオムニバスなどの授業を予定している。また数回は、小課題（小論文など）を行うか、社会で活躍しているゲストを招いて実際の現場で行われている仕事に関するレクチャーなども行う予定である。各回の担当教員についてはガイダンスで説明する。 ※必要に応じて特別講師の講義やエスキースを行うことがあります。 ※建築系アウトプットに関しては設計実務で必要とされるリアリティーのあるプログラムを構築する能力を養うため、造形イメージだけでなく施設・空間の用途や使い方を含めた提案を要求する課題を設定する。			
授業計画。 第 1 回 ガイダンス、尺度（景観デザインの対象にするスケール） 第 2 回 緒言（場の形成） 第 3 回 多様性（気候風土と始源的なまもりのかたち） 第 4 回 原型（架構と組積） 第 5 回 課題Ⅰ 第 6 回 個（民家の環境形成） 第 7 回 線（路地と広場、人間のための街路） 第 8 回 面（庭園と公園、ランドスケープデザイン） 第 9 回 集（都市や集落） 第 10 回 課題Ⅱ 第 11 回 人間（環境心理学、コミュニティ） 第 12 回 自然（自然分析、エネルギー） 第 13 回 論理（場の固有性を生む方法） 第 14 回 調和（制度や仕組にみるシステムの可能性） 第 15 回 課題Ⅲ			
授業時間外の学習内容等 関連書籍については事前の精読しておくこと。			
評価方法 課題 60% 授業への取組 40%による総合評価			
履修上の注意 授業の進行状況などにより授業計画の内容は適宜変更する			
テキスト 授業内容に関わるプリントの配布。			
参考書・参考資料等 『建物はどのように働いているか』エドワード・アレン著、鹿島出版会、『建築構成学』坂本一成ほか著、実教出版、『スマート&スリム未来都市構想』村上周三著、エネルギーフォーラム、このほかにも随時紹介			

授業科目名	設計 CAD 演習 1 実	担当教員名	井上 宗則
	Spatial Planning 1		
時間割	木曜日 4、5 時限	オフィス	
授業科目区分	専門科目ー専門専攻科目ー景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次前期	単位数	2 単位
<p>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 【図学製図】、「空間表現演習 1,2」、「空間計画演習」と内容が関連している。</p>			
<p>授業に関連するキーワード 建築計画、CAD、空間デザイン</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ 建築設計に有用な CAD の操作を習得し、設計演習を行いながら CAD を使った作図と表現することを学びます。空間デザインの設計力を養うこと、CAD を使用した 2D 図面によるプレゼンテーションが行えるようになることが到達目標です</p>			
<p>授業の概要 各課題について、設計主旨文、平面図、立面図、断面図、内観・外観パース（及びスケッチ）を作成しプレゼンテーションします。 課題 1、町家ギャラリー 建物用途：ギャラリースペース、規模 20 坪程度、空家の改修計画 課題 2、専用住宅 建物用途：2 世帯住宅、規模：60 坪程度、構造：木造</p> <p>※設計実務での提案では、イメージとスケールを押さえた具体的な図面のバランスがより重要となるので、そうした視点から提案書を作成しプレゼン・講評を受ける機会を設ける。</p>			
<p>授業計画 第 1－8 回 CAD の基本操作（作図から印刷操作まで）を習得する。 設計課題 1 第 9－12 回 イメージの検討とスケッチによる視覚化。コンセプト形成 第 13－18 回 平面計画、断面計画、立面計画の作成 第 17－18 回 プレゼンテーションと講評 設計課題 2 第 19－22 回 イメージの検討とスケッチによる視覚化。コンセプト形成 第 23－28 回 配置計画、平面計画、架構計画、断面計画、立面計画の作成 第 29－30 回 プレゼンテーションと講評</p>			
<p>授業時間外の学習内容等 授業時間では教員とのエスキース指導に多くを当てるため、授業時間外の作業が見込まれている。</p>			
<p>評価方法 演習の各課題 70%、講評でのプレゼンテーション 20%、授業への取組態度 10%による総合評価</p>			
<p>履修上の注意 演習の進行に応じて課題の建築用途等は変更することがある。現地調査などの費用は個人負担とする</p>			
<p>テキスト 「はじめて学ぶ AutoCAD LT 2015 作図操作ガイド」（ソーテック社）定価 2,380 円+税、設計する身体を育てる（彰国社）定価 2,300 円+税</p>			
<p>参考書・参考資料等 授業内で必要に応じて随時紹介する</p>			

授業科目名	日本建築史演習 <i>History of Japanese Architecture Seminar</i>	担当教員名	澤田 享
時間割	金曜日 2 時限	オフィスアワー	火曜日 2 時限
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3・4 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「日本建築史 1」「日本建築史 2」を受講していることが望ましいが、なくてもよい。			
授業に関連するキーワード			
授業の到達目標及びテーマ わが国独自の建築の構造や造形の美しさを知ることは勿論のこと、それら建築建立の歴史的背景、建築様式、建築技法について理解を深める。 ・テーマ 日本建築の造形美 日本の文様と彩色			
授業の概要 授業は、日本独自の造形美を把握するため、国宝クラスの古建築を対象として、起し絵図風の模型の制作を行う、最終では細部意匠の一つである裏股を取り上げ、年代の形状、彩色についても学ぶ。			
授業計画 第 1 回 国宝・平等院鳳凰堂の作図（起し絵図） 第 2 回 同建築の彩色と制作 第 3 回 // 第 4 回 プレゼンシートの制作（成果報告） 第 5 回 国宝・姫路城の作図（起し絵図） 第 6 回 同建築の彩色と制作 第 7 回 // 第 8 回 プレゼンシートの制作（成果報告） 第 9 回 国宝・清水寺本堂の作図(起し絵図) 第 10 回 同建築の彩色と制作 第 11 回 // 第 12 回 プレゼンシートの制作（成果報告） 第 13 回 国宝・平等院鳳凰堂の裏股のトレース 第 14 回 同彩色(縹縹彩色風) 第 15 回 プレゼンシートの制作			
授業時間外の学習内容等			
評価方法 プレゼンシート 80%、授業態度 20%で評価し、100 点満点で 60 点以上を単位認定とする。			
履修上の注意 製図用具、アクリル絵具、色鉛筆、マーカー 他			
テキスト 「折り紙建築」彰国社 1728 円、適宜、自作プリントを配布する。			
参考書・参考資料等			

授業科目名	設計 CAD 演習 2 Spatial Planning 2	担当教員名	井上 宗則
時間割	水曜日 4、5 時限	オフィス	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 【図学製図】、「空間表現演習 1, 2」、「空間計画演習」「設計 CAD 演習 1」と内容が関連している。			
授業に関連するキーワード 建築計画、CAD、空間デザイン			
授業の到達目標及びテーマ 設計演習を行いながら、そこで考えた各自のプランを題材に 3 次元グラフィックスの技法まで学びます。単なる 3D 表現の習得ではなく、2D 表現とのフィードバックを行いながらコンピュータを用いた設計実技を習得します。そして CAD 図面と CG パースのセットによるプレゼンテーションが行えるようになることが到達目標です。			
授業の概要 建物用途：複合施設、規模：2 階建て 90 坪程度、構造：適宜、の課題を出題します。建築設計製図を学びながら、各自の作成したプランを 2D と 3D 表現によってプレゼンテーションします。 ※設計実務での提案では、イメージとスケールを押さえた具体的な図面のバランスがより重要となるので、そうした視点から提案書を作成しプレゼン・講評を受ける機会を設ける。			
授業計画 第 1－2 回 ガイダンス 企画・設計条件設定 第 3－4 回 イメージスケッチの作成 モデリングの基礎 1 第 5－6 回 イメージモデルの作成 モデリングの基礎 2 第 7－8 回 配置と外構計画 モデリングの基礎 3 第 9－10 回 配置と外構計画 マテリアルの基礎 1 第 11－12 回 デザイン確認アドバイス マテリアルの基礎 2 第 13－14 回 平面計画 レンダリングの基礎 第 15－16 回 平面計画 レタッチの基礎 第 17－18 回 デザイン確認アドバイス 第 19－20 回 断面計画 第 21－22 回 断面計画 第 23－24 回 立面計画 第 25－26 回 立面計画 第 27－28 回 矩計り図 第 29－30 回 プレゼンテーション（配置・平面図、立・断面図、3D パース他）			
授業時間外の学習内容等 授業時間では教員とのエスキース指導に多くを当てるため、授業時間外の作業が見込まれている。			
評価方法 課題の成果 60% 授業への取組 40%			
履修上の注意 演習の進行に応じてプログラムの内容は適宜変更する。CAD 図面の作成など授業時間以外での作業が見込まれるので、欠席しないこと。また現地調査などの費用は個人負担とする。			
テキスト 『超入門 Autodesk 3dsMax 建築ビジュアライゼーション』 櫛間勝義著、学芸出版社 この他に状況に応じたプリントの配布			
参考書・参考資料等 授業内で必要に応じて随時紹介する			

授業科目名	景観デザイン演習 2 (応用) Landscape Design Seminar 2 (Project Planning and Development)	担当教員名	小杉 栄次郎、菅原 香織、石山 友美、井上 宗則、岸 健太
時間割	火曜日 3、4、5 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次後期	単位数	5 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「景観デザイン演習 1 (基礎)」を前提としている。 【設計 CAD 演習 1, 2】と内容が関連している。			
授業に関連するキーワード 景観、フィールドワーク、建築、ランドスケープ、デザイン			
授業の到達目標及びテーマ 景観デザイン演習 1 (基礎) を引き継ぎ、フィールドワークとリサーチからデザインする対象物についてより深く考察し、多様なプログラムを構築し空間や場所をデザインし提案します。最終課題では学生一人一人が独自の制作活動に取り組むための基礎課題として位置づけ、ランドスケープや建築のデザイン設計の表現領域を目指す学生にはさらに先鋭化した成果を目指し、その他、パブリックアートやドキュメントプロジェクトやまちづくりの計画立案とそのための公共型ワークショップなどの表現領域を目指す学生は、そのメディアの扱いや研究・表現手法の基礎を学びそれらの領域を作品化することを目標にします。			
授業の概要 第 1、第 2 課題については、基本的に設計主旨文、平面図、立面図、断面図、内観・外観パース (及びスケッチ) を作成しプレゼンテーションします。(具体的な提出成果物は課題発表時による。) 第 3 課題は、対象課題に関連するアートプロジェクトやドキュメント、ワークショップ開発等の成果物を選択可能とする。(詳細は課題発表時による。) 課題 1、商業施設設計課題 グループワークによるリサーチとフィールドワーク、 課題 2、土木構造物設計課題 構造物にかかる力の流れを意識した景観構造物のデザイン 課題 3、集合住宅課題 「占有と共有／個人と公共」について考える。 ※必要に応じて特別講師の講義やエスキースを行うことがあります。 ※設計実務で必要とされるリアリティーのあるプログラムを構築する能力を養うため、造形イメージだけでなく施設・空間の用途や使い方を含めた提案を要求する課題を設定する。			
授業計画。 設計課題 1 第 1－12 回 フィールドワークと設計デザインスタディーと教員によるエスキース (中間発表・講評含む) 第 13－15 回 プレゼンテーション、講評 設計課題 2 (土木デザインの実務経験豊富な特別講師の指導による) 第 16－24 回 フィールドワークと設計デザインスタディーと教員によるエスキース 第 25－27 回 プレゼンテーション、講評 設計課題 3 第 28－42 回 フィールドワークと設計デザインスタディーと教員によるエスキース (中間発表・講評含む) 第 43－45 回 プレゼンテーション、講評			
授業時間外の学習内容等 授業時間では教員とのエスキース指導に多くを当てるため、授業時間外の作業が見込まれている。			
評価方法 各課題の提出物と講評時のプレゼンテーション 90%、授業への取組態度 10%による総合評価			
履修上の注意 演習の進行に応じて課題の建築用途等に変更することがある。作品の材料費や現地調査などの費用は個人負担とする			
テキスト 授業内で必要に応じて随時紹介する。			
参考書・参考資料等 授業内で必要に応じて随時紹介する			

授業科目名	景観デザイン演習3 (実践) Landscape Design Seminar 3 (Implementation)	担当教員名	小杉 栄次郎、菅原 香織、 石山 友美、井上 宗則、 岸 健太
時間割	火曜日3、4、5時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次前期	単位数	5単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「景観デザイン演習1 (基礎)」、「景観デザイン演習2 (応用)」を前提としている。			
授業に関連するキーワード 景観、フィールドワーク、建築、ランドスケープ、デザイン、アートプロジェクト、ワークショップ			
授業の到達目標及びテーマ 景観デザイン演習1、2を引き継ぎ、学生一人一人がそれぞれの表現領域により実践的に取り組み、その表現領域の作品の深度を深める。卒業研究に向けた表現メディアの研究も本授業の重要なテーマの一つとなる。 課題で与えられた対象エリアやキーワードに対して、学生自ら作品のテーマを見つけ出し、各自が使用したい素材や表現形式を個別の担当教員と共に定めていき成果物を作品化することを目指す。			
授業の概要 第1課題、第2課題ともアウトプットについては、①建築・環境系、②社会課題系、③アート系、などの表現領域にわたり多様性を認める。提出する成果物のボリュームは担当教員と授業を進めながら定めることになる。 課題1、エリア系課題 対象地域を設定し、そのエリアをリサーチ、フィールドワークしながらテーマを定める。 (例)「秋田市中心市街地エリア」 課題2、キーワード系課題 あたえられたキーワードを手掛かりに、リサーチやフィールドワークを重ねてテーマを定める (例)「〇の景観」 ※必要に応じて特別講師の講義やエスキースを行うことがあります。 ※建築系アウトプットに関しては設計実務で必要とされるリアリティーのあるプログラムを構築する能力を養うため、造形イメージだけでなく施設・空間の用途や使い方を含めた提案を要求する課題を設定する。			
授業計画。 設計課題1 第1－18回 フィールドワークと設計デザインスタディーと教員によるエスキース (中間発表・講評含む) 第19－21回 プレゼンテーション、講評 設計課題2 第22－42回 フィールドワークと設計デザインスタディーと教員によるエスキース (中間発表・講評含む) 第43－45回 プレゼンテーション、講評			
授業時間外の学習内容等 授業時間では教員とのエスキース指導に多くを当てるため、授業時間外の作業が見込まれている。			
評価方法 各課題の提出物と講評時のプレゼンテーション90%、授業への取組態度10%による総合評価			
履修上の注意 演習の進行に応じて課題の建築用途等に変更することがある。作品の材料費や現地調査などの費用は個人負担とする			
テキスト 授業内で必要に応じて随時紹介する。			
参考書・参考資料等 授業内で必要に応じて随時紹介する			